

ほんからかわらばん

第3号
発行 2024年5月5日
九州教区
東日本大震災対策小委員会



東北からの手紙

2月、東北教区被災者支援センター専従者の佐藤真史さんの報告集を行いました。その際、震災対策小委員会が以前からあたたためてきた被災地の教職と家族の保養プログラムを合わせて行うこととし、ご家族をお招きしました。以下はそのお礼のお手紙です。

主の御名を誉美いたします。
はじめまして。東北教区被災者支援センター・エマオで専従者として遣わされている佐藤真史の連れ合いの後藤絆奈と申します。

2月19日から25日までの約1週間九州にお招きいただき、家族で保養させていただいたことを心より感謝申し上げます。皆さまのお祈りとお支えのおかげで非常に中身の濃い1週間を過ごすことができました。皆さまに何とかお礼を申し上げたいと思っていた折に新堀先生から原稿依頼をいただきました。

我が家はエマオで専従者として働く夫と専業主婦の私、3歳の息子、

0歳の娘の4人家族なのですが、普段夫は仕事で帰りが遅く、日曜日も担任教師としての教会での働きがあるため、なかなか家族で過ごすことができません。息子が度々「きょうもパパかえってこないの？」と繰り返すので、何とかしなくてはと夫と話し合っていた矢先に九州教区から家族保養も兼ねた活動報告会に招いていただきました。

はじめは父親がずっとそばにすることに慣れない息子でしたが、すぐに父親と楽しそうにしゃべったり会話をしたりしている様子が伺え、こちらも嬉しくなりました。そして、家族で過ごすことの幸せと

豊かさを改めて教えられた1週間でした。

西岡先生にマリンワールドを案内していただき迫力あるイルカとくじらのショーを観ることができました。また、大分のアフリカンサファリでバスの中から動物たちに餌をやったりしました。それがよっぽど楽しかったようで、今でも時々思い出したように息子は「ママ、ライオンさんにおにくあげたよね」とその時のことを口にします。

3・11が起ってから気をつけていることがあります。それは我が

子



子を放射能から守るということです。仙台に来て3年目になりますが、こちらに来て以来、スーパーで食料品を購入したことがほとんどありません。店頭で並べられている食品の多くが福島産か宮城産だからです。また雨の日はなるべく外出しないようにしています。公園の砂場で子どもを遊ばせることもなかなかできません。幼い頃、私は雨の日に外に出て雨のおいをかいたり、長靴で水たまりに入ったりするのが好きでした。そしていつも泥だらけになって遊んでいました。それがどれだけ楽しいことか知っているのに、我が子に「水たまりに入らないで」「砂場じゃない所で遊ぼう」と言っている自分に矛盾を感じます。仙台での生活は子どものやりたいことと放射能から身を守ることのどちらを優先したらいいのか悩み、ストレスを感じる日々です。

しかし、九州での1週間はそんな日々の悩みを忘れさせてくれるものでした。子どもたちを思う存分外で遊ばせることができ、九州で獲れた新鮮で安全な食材で作られた美味しい

お食事をいただき、心から幸せを感じた1週間でした。このような素晴らしい機会を与えて下さった皆さまに深く感謝いたします。



最後にありがとうございました、私たちのためにお世話を下さった新堀先生ご家族、西岡先生、土谷先生ご家族、西畑先生、金さんに心から感謝申し上げます。



ボランティア報告

永二すず江さん

(名瀬教会)

3年前の3月11日、訪問先のお宅で家や車がすごい勢いで流れていく光景をテレビで見っていました。

当時、私は定年退職を迎え時間にゆとりが持てましたが、体力的に自信がなくボランティアを諦めていました。3年後の今、その機会が与えられました。3月11日の震災の日に出発しました。ボランティアの内容は知らされていませんでしたので不安でした。夕方7時過ぎに宿泊先に到着し、その日は肌寒く何枚も重ね着をし、初めての経験の寝袋で眠りにつきました。3年前その日は雪が降り、被災者の方々はどんな思いで夜を過ごしたのだろうと思いを馳せていました。

族会が建てた慰霊碑の社務所「関上の記憶」を訪ねました。そこでは震災の風化を防ぎ、未来の人たちへ津波の恐ろしさを伝え、被災者の方々の心の復活の場所として活動していました。

活動2日目のフィールドワークは石巻市、女川町、雄勝町、大川小学校、長面地域を巡りました。石巻では早くから日本製紙工場が再開しており、沿岸部の水産工場も稼働していましたが、いまだ住宅の再建が成されず、人の流出により人口が減少している状況です。女川では高台にある病院の一階部分が水につき、平地に建てられた鉄筋の銀行の建物は土台の骨組み部分からえぐり取られ横倒したまま残されていました。津波の恐ろしさを実感しました。大川小学校では殆どの生徒が亡くなられています。避難誘導の問題で裁判になっています。雨の為なのか、残された校舎の前に立った時、足がすくむ思いでした。長面地域は海に町が水没し見る影もなく消滅していました。辺りな地域ほど復興の遅れを感じました。

活動3、4日目は農作業に参加しました。4日目の朝は仮設住宅でのラジオ体操に参加し、お茶を飲みながら被害者の方々と談話を楽しみました。その後、エマオの活動拠点である笹屋敷でハウス内の草取り作業を行い、休憩の時そのお宅のご主人が話されていました。震災当初からエマオのボランティアの方々が関わりを持ち続けてくれたことで、ここまで頑張つて来られたと。私自身が、出来る事で、被災地、被災者の方々と関わりを持っていきたいと願っています。

(2014年3月派遣)



第5次ボランティア募集開始!

4月から新たな派遣期間に入りました。現地では様々な賜物が必要とされています。シニア世代の「プラチナ・ボランティア」も喜ばれています。

派遣先:東北教区被災者支援センター(仙台市)
派遣期間:各自でお決め下さい。

ただし 3日以上ワーク可能な方
センターは日曜・月曜は基本的にお休みです。
最新の情報は下記WEBサイトでご確認下さい。

<http://ameblo.jp/jishin-support-uccj/>

派遣補助:教区より一人5万円
作業内容:外ワーク、仮設住宅での活動、こどもプログラム、夕食ボランティア等
お問合せ:委員長 新堀真之

(香椎教会 092-661-3419)

詳しくは募集要項をご覧ください。



支援献金をお寄せください。

小さなことでも、息長く、被災された方々と共に歩む活動を継続してまいりましょう。

支援活動のよう

◆昨年度の支援献金は、合計70口、総額1,708,407円でした。多数の方々から尊い献金をお寄せいただき、心より感謝いたします。昨年度収入は、前年からの繰り越し金約371万円と合わせて、約542万円でした。このうち、被災教区への直接支援に約66万円、現地へのボランティア派遣に65万円、講演会などのプログラムの実施に約60万円等を支出し、今年度に347万円あまり繰り越しました。働きを息長く継続していくため、今年度も支援献金を募集いたします。

◆右記のように、新たに、第5次被災地ボランティア派遣期間に入りました(2014年4月~9月)。多数のご参加をお待ちしています。◆3月11日、九州キリスト教会館を会場に、「東日本大震災3周年追悼記念集会」を行いました。火曜礼拝をこの集會に合流したこともあってでしょうか、36名の参加があり、共に熱い祈りをささげました。わたしたちは、祈りつつ働きました。これからそれぞれに、被災された方々と被災教会、被災教区を覚えてお祈りください。よろしくお願いいたします。

